



三郷小学校



令和元年10月23日(水)
学校通信 第9号
三郷小学校 校長 梶原 直樹

学校ホームページも是非ご覧下さい。 <http://syou.oita-ed.jp/hakatu/misato/>

秋は、行事が目白押し!

運動会が盛会のうちに終わり、子どもたちは通常の生活に戻り、2学期の学習に取り組んでいます。

4ヶ月間もある、最も長い2学期ですが、2学期はたくさんの学習や行事が計画されています。

教室で学習したことを実際に観察・体験する社会見学もこの時期に集中します。

また、やまくにかかしワールドに向けたかかし作りにも参加します。今年はなんとと言っても、山国中学校との合同文化祭に向けた取組にも、実行委員会を立ち上げ計画的に進めているところです。

行事に追われて、本来の学習や活動がおろそかになることは本末転倒です。子どもたちが意欲的に学習成果を上げられるように、職員一丸となって取り組んでいます。



4年生は、山国川源流体験学習で薬師溪谷に行ってきました。北部振興局から苔の専門家、植物の専門家をお招きして、現地で実際の苔や植物を手に取りながら体験学習をしました。非常に天気がよかったことから、水の湧き出る大岩のすぐ際まで足を運び、貴重な体験をしました。水生生物の観察も行いました。ヨコエビや沢ガニ、カジカガエルなどたくさん観察できました。



つけたいかって何だろう?

この時期は、学習内容の現地研修のような社会見学や体験学習が多く仕組みられます。本校の規模では、校長が引率として同行することも多くあります。そんな時、訪問先の関係の方々や説明をしてくださる方への子どもたちの対応が気になることがあります。「こんにちは」「ありがとうございます」「さよ



2年生は、校区探検の集大成として、山国図書館と併せて、コアのシンボルタワーに昇りました。エレベーターがないので、階段を使って昇ってきました。初めて昇る子どもたち（先生はもちろん初めて）は、山国の中心部を一望

して、あらためて山国の自然や地理について学ぶことができました。

3年生は、梨農家と学校前の梨選果場見学に行きました。今年、山国農業公社管理の農園にお邪魔させていただきました。梨作りの苦勞や梨の育て方などについて丁寧に教えていただきました。



一つずつお土産の梨もいただき、ご満悦でした。次の日の選果場見学では、大きさや品質ごとに選果される様子を目

の当たりにすることができました。

山国梨は、みずみずしくて甘くて美味しく、山国自慢の産物だということを感じながらの見学でした。



うなら」は、基本です。あいさつや返事やお礼は、何のためにするでしょう?

気持ちよくなる、笑顔になる、感謝・・・など大切な意義があると思います。学力や体力だけが身につけばいいのでしょうか? 将来身につけてほしい力について、あらためて考えてみたいものです。



三郷小学校

学校ホームページも是非ご覧ください。 <http://syou.oita-ed.jp/nakatu/misato/>



令和元年10月23日(水)
学校通信 第9号
三郷小学校 校長 梶原 直樹

今年も、かかしワールドの参加に向けてかかしを作りました。

今年のテーマは、なんとと言ってもワールドカップ日本代表の活躍を表現するしかありません。残念ながら、日本代表は南アフリカに敗れてしま

チーム三郷は、優勝!



いましたが、史上最高の8位内に進み、大きな感動を与えてもらいました。



チーム三郷は、日本代表がなしえなかった優勝をめざし、一生懸命作りました。



今年も井上悦子さんはじめたくさんの方のご協力で、立派な三郷ラグーマンができました。

ユニフォームのレッドラインも本物と見まごうばかりで、楕円のボールも段ボールや新聞紙で全て手作りのようです。

今年も、駐車場入り口のピオトープ周辺に設置する予定です。ビッグアイ観戦を見逃した方は是非、チーム三郷の観戦にお越しください。ただし、タックル厳禁ですが・・・



あちこちで『ユニバーサル・デザイン』という言葉を目にします。教育現場でも、なくてはならないものとなって、定着してきました。では、ユニバーサル・デザインってどんなものかを紹介し、学校におけるユニバーサル・デザインについて紹介したいと思います。

「ユニバーサル・デザイン」は何?

よく似た意味の言葉で『バリアフリー』というものがあります。これは、そこにバリア(障害)があることが前提で、「バリアをなくす」と解釈します。しかし、『ユニバーサル・デザイン』の考え方は、元々のバリアの概念はなく、「誰もが」「意識なく使える」「使いやすい」といった、当たり前の仕組みとして考えます。

例えば、体の不自由な方のためのものではなく、大人も子どもも、老人も障がいのある方も全ての人が当たり前に使えて誰にとっても有効なものなのです。非常口のマーク、トイレのマークなどがそうです。形や色が万人に分かりやすいと言えば理解しやすいでしょう。

学校では、言葉で何度も説明するより、紙に書いて示したり、イラストや写真で示す方がどの子にも分かりやすいのです。学校では、視覚支援と言ったりします。

ご家庭でも、子どもとの約束事をメモして見えるところに掲示したり、ホワイトボードを連絡用に使い家族が分かるようにすると、叱る回数が減るかもしれませんよ。